

2015年度(平成27年度)

事業報告書



公益財団法人キープ協会

目 次

2015 KEEP REVIEW	2
<hr/>	
公益Ⅰ.環境教育事業	3
1.やまねミュージアム＝環境研究所	
2.フォレストーズスクール	
3.八ヶ岳環境と文化のむら	
山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター	
4.環境省・日光国立公園	
那須平成の森・那須高原ビジターセンター	
5.環境研究所	
6.地域との環境教育事業	
公益Ⅱ.酪農事業	8
・キープ農場	
公益Ⅲ.研修交流事業	10
1.清泉寮	
2.自然学校	
3.ポール・ラッシュ記念館	
公益Ⅳ.国際地域事業	12
・国際交流事業	
公益Ⅴ.保育事業	15
・清里聖ヨハネ保育園	
<hr/>	
収益Ⅰ.製販事業	16
収益Ⅱ.ホテル事業	19
<hr/>	
本部(管理部門)	20
・企画部	
・Friends of KEEP 事務局	

2015年度 KEEP REVIEW

2015年度の公益財団法人キープ協会は、KEEP for the Future (キープ新5か年中長期計画)を運営方針の柱として年間計画を策定し、各種の公益事業および収益事業を展開した。

1. 財政健全化

年度末償却後の全体収支(最終損益)は、計画▲5,000万円に対して実績▲2,000万円となり、予算比で3,000万円超過達成し財政改善が図られた。

2. 6次産業化

敷地内での牛乳加工施設の新設や販売店舗の拡充・整備等について検討を行った。なお、加工施設の新設については、現状では無理との結論に至り、計画見送りとした。

3. 清泉寮新別館改築計画

清泉寮本館(旧館)は現状の機能を保持し、引き続き利用客への供用を継続する。清泉寮別館については、2016年度のオフシーズンに改修工事を実施し、引き続き宿泊研修施設として使用する。

4. 組織の見直し

国際地域事業部を廃止し、所属していた国際交流事業および地域貢献事業担当のスタッフを、自然学校や企画部に異動配置し、それぞれ連携を取りながら柔軟にプログラム運営にあたった。また、ユースキャンプ場の管理運営業務は研修交流事業部(自然学校)に移管した。

5. その他

①将来的な財政基盤を強固にするため、キープ協会の内部組織として、役員主導による「募金委員会」を立ち上げるべく検討を行ったが、ファンドレイズのコンサルタントを迎えて、理事長直轄の職員プロジェクトチームとして活動することになり、継続して業務にあたっている。

②清里聖ヨハネ保育園・新園舎建設募金は、当初の予定通り2015年10月までに目標額3,000万円を突破し、無事に資金計画が達成された。園は「もりのほいくえん」のコンセプトのもと、充実した保育活動を展開している



公益 I. 環境教育事業

子どもからシニア世代までを対象とした「教育」とヤマネの総合的な「研究」を両輪として、また市民・学校・企業・行政など多様な主体との協働を通して、多様な環境教育事業を展開した。

1. キープやまねミュージアム

(1) キープやまねミュージアムの役割

ヤマネの総合的な研究のさらなる推進、ヤマネ保護と森林生物多様性保全の提案、研究成果を活かした環境教育・環境保全策の普及

(2) 2015 年度の重点目標

ヤマネ研究成果の総括（論文等）と森林環境保全への活用及び効果的な展示

(3) 2015 年度の事業実績

①総合的なヤマネの基礎研究とヤマネに関する研究論文の発表(国内外 計 2 報)

②調査受託

③ヤマネ保護と環境保全の提案に向けた研究の推進

1：山梨県希少動物（小型哺乳類）生息調査（RDB 調査）

2：環境アセスメント学会での事例報告

④研究成果を活かした環境教育プログラムの研究開発と実践、メディアを通じた教育の実施（NHK E テレ「なりきり！む～にゃんいきもの学園」への協力等）

⑤「やまねミュージアム」の管理運営

⑥樹上性動物保護の具体策「アニマルパスウェイ (AP)」の普及（AP 研究会構成員として）

1：「第 24 回地球環境大賞」審査員特別賞受賞（フジサンケイグループより）

2：北杜市制 11 周年記念式典における奨励表彰

3：北杜市内全小学校へのアニマルパスウェイに関する小冊子（絵本）寄贈

⑦やまねミュージアム雨漏対策完了

(4) 開館日数、入館者等の実績

表 1：2015 年度やまねミュージアム開館日数・入館者数等の実績

	2015 年度	2014 年度	増減／昨年比
年間開館日数	292	289	+3（※時間限定 臨時開館含む）
入館者数	19,339	17,654	1,685／109.5%
1 日平均入館者数	66.2	61.0	5.2／108.5%
利用団体数	70	47	23／148.9%
団体利用者数	2,852	2,678	174／106.5%

2. フォレスターズ・スクール

(1) キープ・フォレスターズ・スクールの役割

環境教育プログラムの提供（主催事業・受託事業）、
環境教育プログラムの研究・開発、
環境教育ネットワークの支援、「インタープリター」の役割の普及

(2) 2015 年度の重点目標

①主催事業の強化 ②森林保全作業を通じた環境教育の検討および実践

(3) 主催事業

「実験」「協働」「プログラム開発」という位置づけの下、以下のプログラムを実施した。（表 2 参照）

表 2：2015 年主催事業の実績

	2015 年度		2014 年度	
	回数	参加者数	回数	参加者数
宿泊型環境教育プログラム	15	451	14	370
日帰り型環境教育プログラム	11	217	7	151

(4) 受託事業

学校・企業・省庁・自治体などから受託事業を受入れた。（表 3 参照）

表 3：2015 年度受託事業の実績

区分	対象	主な利用団体
清里での プログラム	学校関係	立教池袋中学校、聖心女子学院初等科、山梨県内外私立公立小中学校、 立教大学大学院、明星大学、専修大学、東京都市大学、山梨学院短期大学、 ハリウッド美容専門学校、高崎看護専門学校
	行政関係	林野庁、山梨県、北杜市、富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合
	一般	日本環境教育フォーラム、神社本庁、聖路加国際病院、NEC、生長の家
出張 プログラム	行政関係	林野庁、山梨県、北杜市、青少年教育振興機構、青年海外協力協会、
	一般	中部電力、サントリーグループ、電源開発、伊豆半島ジオパーク、 中国環境教育研修、台湾環境教育研修
合計	269 事業	

(5) 指導教育

職員のスキルアップのための研修を行った。また、事業部として 3 人の実習生を迎えた。

3. ～八ヶ岳環境と文化のむら～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター

(指定管理事業)

(1) 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターの役割

自然環境に関する情報と学習の機会を提供することを通して、山梨県の良好な環境の保全と継承に貢献します。

(2) 2015 年度のテーマ＝20 年

(3) 2015 年度の事業実績

プログラムの開発と実践、施設内外での展示、年度テーマに即した事業の実施、自然資料収集のための調査、教材開発、地域の拠点施設としての活動、周辺の文化施設、地域にあるネットワークとの連携、自然ふれあい施設としてのハードの整備・施設維持管理、自主事業（環境教育関連書籍やグッズ販売、スノーシュー貸し出し）

(4) 開館日数、入館者等の実績

表 4：2015 年度八ヶ岳自然ふれあいセンター開館日数・入館者数等の実績

	2015 年度	2014 年度	増減／昨年比
年間開館日	323	318	+5
入館者数	107,997	112,940	△4,943／95.6%
開館（1994.11）以来の 総入館者数	1,902,218	1,794,221	
1 日平均入館者数	334	355	△21／94.0%
利用団体数	291	319	△28／91.2%
団体利用者数	15,433	17,827	△2,394／86.5%
プログラム回数・参加者数	345／10,640	315／7,011	+30／+3,629

4. 環境省 日光国立公園

(1) 事業実績

①全体

第 2 期（仮称）の 2 年目の業務実施、人材育成事業の実施、地域連携の強化、利用促進のための方策を立案し実施、提案書に明記した業務（自然教育プログラム、展示、広報・普及啓発、業務の質の維持向上）の実施

②那須平成の森

フィールドセンター運営、プログラム開発と実施、環境教育人材育成事業の実施、屋内外の展示制作、公園の環境管理、「那須平成の森基金」の事務局運営

③那須高原ビジターセンター

ビジターセンター運営、那須甲子地域との連携事業

(2) 開館日数、入館者等の実績

表 5 : 2015 年度那須平成の森・那須高原ビジターセンターの実績

	2015 年度	2014 年度	増減
●那須平成の森			
年間開館日	347	348	△1
入館者数	65,016	67,197	△2,181
(内、立寄り団体利用者数)	13,066	14,460	△1,394
(公募)個人利用者向け利用者 負担プログラム参加者数(※)	1,767(272回)	1,663(295回)	104(△23)
(※)=ガイドウォーク、同特別編、自然体験・学習プログラム、森林管理(モリタシグ)プログラム			
無料ミニプログラム参加者数	6,186(966回)	5,255(948回)	931(18)
(受託)団体利用者向け利用者 負担プログラム参加者数	1,688(61団体)	1,767(57団体)	△79(4)
●那須高原ビジターセンター			
年間開館日	348	345	3
入館者数	29,444	27,833	1,611
(内、立寄り団体利用者数)	9,668	9,894	△226

5. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定受託

地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受け、次の事業を行った。

- (1) 地球温暖化の現状及び地球温暖化対策の重要性についての啓発及び広報活動
9 イベント 13 日間出展、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターでの展示展開、パンフレット・広報ツール等の作成、子ども対象プログラム開催等
- (2) 地球温暖化防止活動推進員及び地球温暖化対策の推進を図るための活動を行う民間団体の活動支援
研修会 2 回実施、関東ブロック合同研修会への参画、全国センターとの協働によるツール開発、ホームページ・通信等での広報協力等
- (3) 日常生活に関する温室効果ガスの排出抑制のための措置についての照会、相談及び助言
推進員・行政関係者・県民等 60 件対応
- (4) 日常生活に関する温室効果ガス排出実態についての調査、分析
山梨県環境家計簿及び全国センターアンケートへの協力
- (5) 定期的又は時宜に応じた上記調査分析結果の提供
問合せ時等随時の情報提供

6. 環境研究所

環境教育事業部の柱の1つとして、事業部横断的に活動を行った。

(1) 環境保全研究

主にやまねミュージアムが担った（詳細は1参照）。

(2) 環境教育研究

環境教育プログラム集の編集を進め、学会などでの発表を行った。

7. 地域との環境教育事業

(1) 地域との環境教育事業

保育事業部・研修交流事業部と協働し、「森の学童」を実施した。

また、山梨県や北杜市と協働し、地域住民に対する環境教育を行い、各種ネットワークへ参画した。

公益Ⅱ．酪農事業（キープ農場）

1．牛乳生産（有機 JAS 認定）

年間平均 91 頭のジャージー乳牛の飼育管理を主とした酪農業務に専念した。そのうち 38 頭の搾乳を行い、総生産量 156,324kg の牛乳を生産した。その殆ど（152,436kg）は群馬県前橋市にあるタカハシ乳業に出荷され、低温殺菌による製品化を経て、KEEP 有機 JAS ジャージー牛乳として主に首都圏及び消費者団体に販売、高品質・安心・安全のジャージー牛乳として高く評価されている。また草地管理面積約 72ha（採草地 45ha、放牧地 25ha その他 2ha）で飼料用牧草を栽培し、乾草、サイレージ用とした。飼料の安心安全・衛生面を改善し、有機 JAS 認定牛乳の生産維持に努力した。

2．山梨県等との協力

山梨県の酪農経営安定の為、山梨県畜産課、酪農試験場、西部家畜保健衛生所、山梨県改良協会、家畜共済、乳量検定組合等に乳牛飼育者の立場で協力した。

3．酪農体験・実習生受け入れ・害獣調査

教育農場としての役割を果たすべく、一般の酪農体験のプログラムを提供するとともに、日本大学（7名）、麻布大学（2名）、埼玉大学（2名）及び酪農ヘルパー協会（5名）の学生による牧場実習体験を受け入れた。また大型連休・夏休み等の来場者が多い時期に、野外搾乳体験・ヘイライドなどを実施した。

また、筑波大学による近年増加傾向にある鹿の頭数及び獣害（食害等）についての調査に協力し、実態の把握に努めた。

4．酪農振興補助事業

①山梨県酪農環境負荷軽減支援事業推進協議会に参加し、酪農環境負荷軽減 支援事業を実施した。

②山梨県耕作放棄地対策放牧推進助成事業として、山羊・雄仔牛の貸し出しを行った。

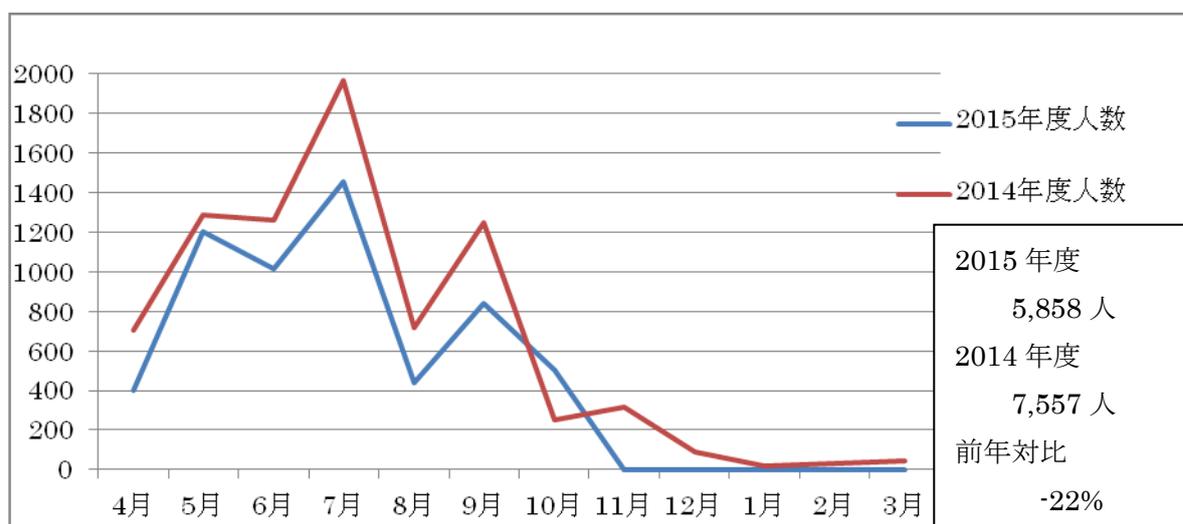
5．家畜伝染病検査（ヨーネ病検査）

7月1日に西部家畜保健所のもと、4年に一度の家畜法定伝染病（ヨーネ病）の検査が行われ、これに伴い、7月から酪農体験が制限をした形で実施した。

6. 飼育頭数及び乳量

飼育頭数	2015年度	2014年度	増減
成牛	46	60	△14
育成牛	41	39	2
哺乳牛	4	24	△20
合計	91	123	△32
内 搾乳頭数	38	51	△13
総生産乳量	156,324kg	170,361kg	△14,037kg

7. 酪農体験プログラム利用者数



公益Ⅲ．研修交流事業

1．清泉寮

清泉寮は、公益財団法人キープ協会の中核施設としての役割と、宿泊研修施設としての特徴を生かすことで、近隣の他の施設との差別化を図りつつ、収支の健全化と稼働の向上を図った。

- (1) 団体、個人合わせて稼働を重視する施策を行い、稼働率を前年の 53%から 55%に向上させることができた。特に、4月(41%→47%)、6月(48%→54%)、10月(57%→65%)、3月(41%→48%) にといったピークに準じる期間に成果を出せた。一方で、12月(49%→39%)、1月(30%→25%) といった閑散期には大きな課題を残した。
- (2) 重点事業としての食育に関しては、キープ農場の牛乳を始め、地元生産者との連携による地元の食材の活用および手作りへのこだわり等をより重視した安全安心なメニューの提供に重点を置き、多くの顧客の支持を得た。一方で、食材の価格の高騰に悩まされ続け、食材原価率は 32%と当初の 30.5%の見込みを大きく超える結果となった。
- (3) スタッフのチェックと施設部との連携強化により、施設の計画的な修繕と故障による客室の販売停止の予防を図った。一方で、懸案であった本館部分の耐震・防火強化に向けての修繕計画を策定し、2016年度下半期の休館による実施を行うことを決定した。

2．キープ自然学校

キープ自然学校は、リーズナブルな料金と人と自然に配慮した公益性の高い団体研修施設としての特徴を生かし、多くの団体の受け入れと、主催キャンプの実施に積極的に取り組んだ。

- (1) 幼児とその家族を対象とした「キープ森のようちえん」、小中学生を対象とした「やまもりキャンプ」、小中学生や大人を対象とした「みちくさ森あそび隊」など、幼保教育、青少年教育、食育など、自然学校が大切にしているテーマに沿った計 33 本（2014年度は 28 本）の主催キャンプを実施した。

- (2) アレルギー対応にも積極的に対応を図り、安全安心な食事を提供すると共に、梅漬け、干し柿、味噌づくりなど「食と体験」をテーマにした参加型のキャンプや、畑や田んぼの生産者と消費者を繋ぐ「クッキング教室」を実施した。
- (3) 養護学校、福祉施設のほか、山梨ダルク（薬物依存者の民間回復支援施設）との協働作業、病気を持った子供たちの宿泊プログラム、震災や原発事故による避難生活者を対象とした親子のキャンプなど、公益の観点に沿った団体の受け入れにも力を入れた。
- (4) 幼児や身体的な弱者の受け入れを積極的に行うために、活動エリア内にある森の整備活動をスタッフ全員で取り組んだ。

3. ポール・ラッシュ記念館

ポール・ラッシュ記念館は、公益財団法人キープ協会の原点として、併設される日本アメリカンフットボールの殿堂と共に、集客と広報機能の両立を図った。

- (1) 清里聖ヨハネ保育園の新園舎落成を記念した「KEEP の森で育つ子どもたち展」(5月～11月)、昨年に続いての著名なガーデンデザイナーによる「ポール・スミザーイラスト『森庭へ…』」(12月～3月)といった関連性のある新たな企画展を開催し、集客の実績を上げると共に、ミュージアムの魅力の発信に取り組んだ。
- (2) 新たなパンフレットや看板、清泉寮宿泊者向けのミュージアムパスポートの作成、KEEP内の他施設利用者の優待制度の実施や、マスコミ関係への積極的な広報活動や連携強化協力により、認知度の向上と共に、入館者数は2014年度の8,869人から、2015年度は9,217人と増加した。
- (3) 米国聖公会からボランティアスタッフを1名、ケンタッキー州のベリア大学からインターン生を1名と、計2名のスタッフを海外から迎え、交流と協働の成果を上げた。
- (4) 収蔵資料のデジタルデータベース化作業を前年から継続するなど、博士の遺した資料群の内容調査と保存環境の整備を続けた。

公益Ⅳ．国際地域事業

1．国際交流事業

(1) キープ米国後援会(ACK)との協働による事業

青年平和交流事業「絆プロジェクト」(後述)のキープ協会への受入を協働で実施した。

(2) フィリピン農山村援助交流事業

①北フィリピン教区との交流事業

北フィリピン教区とのこれまでの交流・協力関係を継承・発展させる形で、教区の青年の育成・交流を目的として「日比米聖公会三教区青年交流プロジェクト」(後述)を協働で実施した。

②フィリピン山岳地帯における農山村の森林再生・森林保全文化形成事業
フィリピン北部の農村での植林・コーヒー栽培・販売による収益改善支援、および森林保護のための人材育成・育苗施設整備支援を実施した(2006年から継続)。また現地で収穫された有機栽培コーヒーをキープ協会内で消費・販売した。

- ・対象地域 フィリピン・ベンゲット州トゥブライ郡アンバサダー村マムヨッド集落
- ・協働団体 コーディレラ・グリーン・ネットワーク(CGN)
- ・事業期間 2014年7月1日～2016年6月30日
- ・植林本数 27,280本
- ・助成団体 国土緑化推進機構「緑の募金」

(3) 日比米聖公会三教区青年交流プロジェクトの3年目事業

聖公会青年の育成および平和・国際理解の促進のための3教区合同事業(2013年から3ヵ年計画)。2013年日本、2014年フィリピンで実施し、2015年はアメリカで実施した。またフィリピン参加者5名を受け入れ協会内外での交流を行った(後述)。

- ・訪問地 アメリカ・ナバホランド(ニューメキシコ州、アリゾナ州、他)
- ・期間 7月31日～8月18日
- ・参加者 計14名 日比米から聖公会青年信徒および引率者

- (4) 米国ベリア大学・フランスなどからのインターン受け入れ
 アメリカ・フランス・フィリピンから計 13 名のインターン生・ボランティアを受け入れ、キープ内外での国際理解・交流の場を創出した。
- ①米国聖公会青年ボランティア(アメリカ)1名、2月17日～12月19日(2年目)
 - ②ベリア大学(アメリカ ケンタッキー州)2名、6月10日～8月10日
 - ③ウェルズリー大学(アメリカ マサチューセッツ州)1名、6月5日～8月7日
 - ④リール大学(フランス)2名、7月3日～8月26日
 - ⑤コーディネエラ・グリーン・ネットワーク(フィリピン)2名、8月5日～10月21日
 - ⑥フィリピン聖公会北フィリピン教区 5名、8月26日～10月27日
- (5) 北杜市国際交流委員会・米国ケンタッキー州マディソン郡との姉妹地域交流事業
 北杜市マディソン郡姉妹地域間交流事業について下記の事業を実施した。
- ①北杜市代表団米国ケンタッキー州マディソン郡親善訪問事業
 5月11日(月)～5月20日(水)10日間 13名(団員11名・事務局2名)
 - ②日米文化交流事業(訪問)
 5月16日(土)～5月23日(土)8日間、派遣交流員1名
 - ③米国ケンタッキー州マディソン郡中学生ホームステイ派遣事業
 7月28日(火)～8月6日(木)10日間 11名(中学2年生9名・引率教諭2名)
 - ④米国ケンタッキー州マディソン郡代表団北杜市親善訪問事業
 10月13日(火)～10月20日(火)8日間 14名(代表団9名・文化交流員1名・クラフト4名)
 - ⑤日米文化交流事業(受入)
 10月19日(月)～10月24日(土)6日間、受入交流員1名
 - ⑥子ども絵画交流事業
 日米小学4～6年生対象、日米各20作品選出、テーマ「昔話」
 巡回展示 5月～10月(マディソン郡内)・12月～1月(北杜市内)
- (6) 北杜市中中学生海外交流事業の企画・コーディネート業務
 北杜市教育委員会の委託を受け、下記の事業を行った(2012年度から継続)。
 派遣地 カナダ・アルバータ州クロウズネストパス
 8月7日(金)～8月14日(金)8日間 参加14名(中学生11名・引率3名)
- (7) NPO ピース・フィールド・ジャパンとの協働による、イスラエル・パレスチナ・日本の青年平和交流事業「KIZUNA PROJECT」
 三カ国の若者を受け入れ、キープ協会での宿泊・食事の提供、ポール・ラッシュ博士の精神や環境教育事業、保育事業を学ぶプログラムの提供を行った

(2008年から継続)。なお主催者のピース・フィールド・ジャパンは2016年3月国際交流基金より「地球市民賞」を受賞。

- ・主催 ピース・フィールド・ジャパン(NGO、東京)
- ・人数 計20名 イスラエル・パレスチナ・日本3地域から各4名の青年、引率者
- ・期間 8月9日～8月11日
- ・協力 アメリカ・キープ後援会(キープ協会での費用を助成)

2. 組織の見直し

- (1) 効率的な業務遂行のため、国際業務担当スタッフは企画部・研修交流事業部等に配属した。
- (2) 従来、国際地域事業部が担当してきた「キャンプ場」運営業務は、研修交流事業部(自然学校)に移管した。

公益Ⅴ． 保育事業（清里聖ヨハネ保育園）

キリスト教の精神に基づき「一人ひとりを祝福する保育」を保育目標に掲げ、また「森のほいくえん」のコンセプトのもと、地域の資源である豊かな自然環境を積極的に活かした保育活動を重点的に行った。また、キープ協会の公益事業の中でも、地域社会とのつながりを深めるキーステーションとして、地域との交流事業にも積極的に取り組んだ。

1. 異年齢児保育の継続

2015年度は、野外での活動の多くを、異年齢児保育として取り組んだ。そのふりかえりを基に、2016年度は、異年齢児の活動と年齢別の活動のそれぞれの良さを組み合わせる保育を展開するものとした。

2. キープ自然学校・キープ森のようちえんプロジェクトとの連携

レンジャー経験のある職員や森の保育の経験を積んできた保育士が複数いるようになったため、保育園職員のみで野外活動を行うことが常態化し、散歩等で森に出かけることが日常的となった。キープ自然学校とは、フィールドの使用や整備での協働を行う。

3. 環境教育プログラム・国際理解プログラム

環境教育プログラム「森のじかん」を年間53回、国際理解プログラム「平和のじかん」を年間3回実施した。

4. 安全・安心な給食提供と食育の実践

毎日の給食の地産地産にこだわり、安心安全な食事の提供を心がけ、保護者には実際の給食をディスプレイして伝えることや、月に一度の誕生会の後に給食を一緒に食べていただく活動を行った。また2ヶ月に一度、食材の放射能検査を実施した。

5. 保育士の資質の向上

チーム保育を進めるため、チームの目的意識を高め問題を共有するために、園内研修を2回実施した。また、個々のスキルアップのために、外部研修への積極的参加を奨励した。

6. 新園舎建設事業

2015年2月末に予定通り竣工完成し、「竣工式」ならびに「完成祝賀会」を開催することが出来た。また、建設募金活動は、当初の計画通り2016年10月に目標募金金額の3000万円を突破し、資金計画も達成することが出来た。

収益 I . 製販事業

KEEP for the Future に則った事業展開を行い、とくに MBF (Most Beautiful Farm) プロジェクトを推進すると共に、キープ協会の経済的基盤を支えるための収益の確保を図った。

1. 収支動向 (金額：千円)

収入部門	2015 年度	2014 年度	前年比
売店	294,671	287,230	102.6%
ソフトクリーム	176,805	161,872	109.2%
飲食	64,596	60,628	106.5%
合計	536,072	509,730	105.2%

- (1) 収入に関しては、天候に大きく左右された 1 年ではあったが、ゴールデンウィークおよびシルバーウィークが好調であったこと、また冬期の積雪が例年より少なかったことによる入込み増や、原材料費の高騰によるソフトクリームの値上げもあり、最終的には前年比 105.2% (予算比 96.7%)、新たに運営を始めた清泉寮新館売店の収入を除いても前年比 102.5%という結果に終わった。
- (2) 支出に関しては、前年比 103.8% (予算比 96.2%) と収入に応じた徹底管理がなされた。その結果、最終損益は前年比 110.3% (予算比 99.4%) の増益となった。

2. 通常業務

継続的に実施した通常業務は以下の通り。

- 清泉寮ギフトショップ・清泉寮ジャージーハット・清泉寮パン工房・キープファームショップ・清泉寮セレクトショップ、清泉寮新館売店（2015年度より）、および清泉寮ソフトクリーム ラザウオーク店の計7店舗を運営
- ジャージー牛乳から 生クリーム・バター・ヨーグルトを自家製造
- 無添加ソーセージを自家製造
- 天然酵母によるこだわりのパンを自家製造
- 地元産および県内産の果実を使ったジャムを自家製造
- 付加価値を高めたオリジナル雑貨商品の製作
- ジャージー牛乳の消費促進および高付加価値化を図った商品展開およびメニュー展開
- 顧客満足度を高める 接客・サービスの向上
- 各店舗コンセプトの明確化による 複数店舗利用促進
- 各種インフォメーションの充実による 複数店舗利用促進
- 飲食部門に於いては 「人と地球の健康」 をキーワードとした 食の安全と環境への配慮を強く意識したメニューを展開
- キープ農場産の牛肉を使用したメニューを展開
- 自家製乳製品を多用したメニューを展開
- 物産展および催事等への出張販売（別表参照）
- ギフト需要に対応した 自社通販および百貨店等の産直販売
- POSシステムと購買の一元化による徹底した仕入・在庫管理
- ACKと連携した 海外製品の直輸入
- 各種媒体およびメディアを活用した広報宣伝
- 景観に配慮した各店舗周辺的环境整備
- ガーデン管理および環境美化による 癒しの空間を提供
- 各店舗間の横断的なシフトによる効率化で人件費を削減
- 収入に応じた支出管理の徹底

3. 出張販売

場所	事業名	期日
大阪 阪急うめだ本店	安曇野 清里 軽井沢 美味しいもの 美しいもの	5/27～6/2
長坂 スポーツ公園	北杜ふるさとまつり	8/2
名古屋 丸栄百貨店	山梨の物産と観光展	9/3～9/8
池袋 東武百貨店	富士山のめぐみ 山梨・静岡物産展	10/8～10/13
青森 さくら野百貨店	ズームイン!! サタデー 全国うまいもの博	10/10～10/18
川崎 日本食肉流通センター	ちくさんフードフェア	10/10～10/11
新潟 新潟伊勢丹	ズームイン!!サタデー 全国うまいもの博	10/28～11/3
羽村 富士見公園	羽村市産業祭	10/31～11/1
甲府 県立美術館 レンガ広場	ミュゼマルシェ	11/7～11/8
稲城 くろがねや稲城押立店	出張販売	11/14～12/13
大阪 あべのハルカス近鉄本店	ふじのくに 山梨・静岡物産展	11/18～11/24
新宿 京王百貨店	元祖有名駅弁と全国うまいもの大会	1/7～1/19

出張販売件数	ソフトクリーム売上	物販売上	合計（税別）
12 件	20,807 千円	1,861 千円	22,668 千円
前年 14 件	19,773 千円	1,885 千円	21,658 千円
前年比	105.2%	98.7%	104.7%

収益Ⅱ．ホテル事業

清泉寮の宿泊研修施設を利用して、一般の宿泊客ならびに立寄りのレストラン利用客やブライダルの受け入れを行った。

1. 宿泊

抜群の景観と自然環境、安全安心な食の提供、良質な温泉施設、気軽に参加できるプログラムや徒歩圏内にある3箇所のミュージアム、といった特徴を生かして、近隣の施設との競争を避ける中で、利用者に癒しと再生の場となるようなサービスと商品の提供を図り、稼働率を2014年度の53%から、2015年度は55%に向上させた。

2. レストラン

地元農家との連携を生かした地産地消と健康的な手作りの食事による安全安心な食の提供を積極的に行い、本館ランチの営業日の拡大や、清泉寮らしさを生かした13件のブライダルの獲得などにより、宿泊者以外のお客様への食事の提供機会を増大させた。

本部（管理部門）

■企画部

1. 中長期計画の進捗管理業務

(1) KEEP for the Future 2013(中長期 5 カ年計画)委員会の事務局業務

- ① 2015 年度委員会開催・・・9 回
- ② キープの食育取組みのパンフレットを作成し、レストラン・物産展等で配布した。

(2) 立寄団体客集客検討ミーティング

日帰り団体客の集客に向けて、関連部署の担当者とメンバーを構成し対策を行った。

- ① 2015 年度開催・・・5 回
- ② 立寄団体バス予約管理台帳を作成し管理集計を行った。
- ③ 清泉寮エリアに 3 ヶ所、施設案内図・時間を掲載した看板を設置した。
- ④ 冬期イベント情報 WEB ページ作成した。

(3) 牛乳加工販売施設検討ミーティング

- ① 理事長、製販事業部、施設部で新ジャージーハット建設に向けた協議進化した。

2. 企画調整・広報業務

(1) 雑誌掲載、TV 番組、商材撮影などの円滑な対応と、よりよい PR につながる発展的提案を行った。

対応実績

大手観光情報誌(るるぶ、まっぷるなど)	23
その他情報誌(ローカル誌、フリーペーパーなど)	15
情報 WEB サイト、アプリなど	11
新聞(一般、県内紙など)	5
TV 番組(在京キー局)	4
TV 番組(ローカル)	4
BS・CS、ケーブル TV 番組	5
ラジオ番組	5
商材撮影(カタログ、ミュージックビデオなど)	4
広告出稿	5

- (2) WEB サイトの管理と定期的な更新をした。
- (3) 季節の情報とキープ内施設の案内パンフレット「清泉寮まるごとマップ」などの印刷物の継続的な改善と発行を行った。
- (4) インバウンド向け「清泉寮まるごとマップ・中国語版」と「清泉寮まるごとマップ・英語版」を作成して、キープ外にも発信をした。

3. 職員教育訓練業務

- (1) 新入職員・若手職員対象研修
キープ協会の歴史的背景の習得、体験を通して理解を深める内容で実施した。
- (2) 事業部長・部長研修
組織のビジョンの実現させるための、戦略・戦術の立案スキルや共有するためのコミュニケーションスキル向上を目的として行った。
- (3) 外部研修
接客等専門知識の吸収、教養と識見の向上を図った。

2016年1月22日	やまなし観光産業活性化シンポジウム	県観光部
2016年2月1日	おもてなしセミナー	やまなし観光推進機構
2016年2月26日	中小企業の経営改革と人材確保・育成	山梨ちゅうぎん経営者クラブ
2016年3月10日	クレーム対応の技と心得	山梨ちゅうぎん経営者クラブ

4. Friends of KEEP 会員組織管理業務

- (1) 会員獲得活動
 - ① キープ協会維持会員(個人)・・・273名(前年対比+25名)
法人会員・・・16社(前年対比-1社)
清泉寮クラブ会員・・・377名(前年対比+44名)
 - ② 2014年度キープ協会維持会員の芳名パネルを作成して、清泉寮本館案内所前に掲出した。
 - ③ 年度収支報告書を会員に配信した。
- (2) 会員誌清泉寮通信の作成と発信
 - ① 清泉寮通信を4月と7月の2回送付した。また、清泉寮のメールマガジン配信にあわせて、会員宛にも清泉寮割引宿泊プランをメールでご案内した。

